

# 全国から魅力あふれる自治体が集う

## 「スローライフまちづくりシンポジウム」

歴史や文化、暮らしの中から個性あふれる豊かなまちづくりを追求するスローライフまちづくりシンポジウムを10月25日に中央公民館で開催しました。



▲シンポジウムの様子

「温故知新とスローライフ」をテーマとしたシンポジウムには、スローライフまちづくり全国都市会議を構成する14自治体の内全国から9市町の首長など関係者・一般参加者の約70人が来場しました。

趙勇氏（ちゆうゆう）による揚琴演奏で幕を開け、横尾市長が開催市のあいさつと基調講演を行い、その後8自治体の事例発表が行われました。

ゆったりと川の流れるを感じる長良川鵜飼、信長公の時代に生まれ今に広がる落語など物事に「スロー」という光を当てればさまざまな「モノ」が見えてくるという視点の大切さを説く

### ▼基調講演を行う横尾市長



### ▼趙勇氏の揚琴演奏



参加者は歴史と文化に感謝し、地域の特性を生かした魅力あふれるまちづくりの大切さを学びました。

最後に、先人たちがつくり上げてきた歴史や文化、暮らしの中で生み出された様々な知恵を大切に、個性豊かな地域を目指していく「スローライフまちづくり多宣言」を淵上哲也（ふちがみ）副市長が読み上げ幕を下ろしました。

歴史の中にある変わらない「モノ」を現代に結び付ける努力の大切さを感じたシンポジウムでした。

細江茂光（ほそえ）岐阜市長の発表に始まり、下呂市の中山島副市長から過疎地域自立活性化優良事例として今年度総務大臣賞を受賞した200滝めぐりでのまちおこしの取り組みなどが発表されました。

## 市長コラム

## 温故創新

Message for citizen

### 未来へのチャレンジ

市長 横尾俊彦

西溪公園の紅葉祭りはにぎわいました。秋色に染まり、日々新たな光景とも感じられました。この「日々新たに」は未来創造に欠かせません。

市政も新たなチャレンジを進めています。

まずは行革。市の業務分析を行い、簡素化できるものは簡素化し、職員の業務負担を減らし、市民の皆さんの手間や負担を軽減できる改革をめざします。全国の範となる展開をめざしています。

教育ではシャープ、日本標準、マイクロソフトの支援でタブレットパソコンによる学力向上を推進します。全国唯一、多久市が選ばれました。

医療では肝がん撲滅プロジェクトも推進中。肝炎検査受検率を高め、早期治療を促しています。

交通基盤では女山トンネル本体工事が始まりました。沿線自治体で整備促進期成会を立ち上げ、その会長として国・県に要望してきました。厳しい財政事情の中に財源を確保してもらいました。

環境では多久・小城の広域クリーンセンター整備の天山共同環境組合を設立し、初議会を開催しました。同日夕刻には整備予定地域建設委員会にも経過報告し、地域環境整備の意見交換も行いました。今後両市協力して進展を図ります。

企業誘致ではJA食糧さがの本社移転と新工場が落成。新たな拠点として発展が期待されます。

一方、国政では衆議院が急な解散となり、12月14日投票に向けて猛ダッシュという展開になりました。投票に行き、貴重な参政権を行使して下さい。未来選択のチャレンジでもあります。